

# 未来を そうぞう する子ども

## ○ めざす子ども像

まなびの対象を「とする広く社会や自然」C領域は、目指す子どもを「よりよい未来をそうぞうするために、他者と共にいかなる課題においても、課題解決のためにアプローチし続ける子ども」としています。

## ○ C領域の概要

C領域では、自分を取り巻く社会や自然について自分事としてとらえ、よりよい未来の創造に向けて、それらに対して自分なりに出来ることを「想像」し、社会や自然にアプローチすることができる学習を展開しています。その中で、「すべてのことに意味がある」という考え方を育むことを目指しています。

低学年においては、自分の身近なもの・こと・ひとが対象となります。中学年においては、今まで直接関わることのなかったもの・こと・ひとについても、アプローチしていく段階となります。教科としても理科や社会科が入ることで、意識出来る範囲も一段と広がります。高学年においては、これまでの経験をもとに、より一層範囲を広げ、自分の興味関心から今まで自分とは関わりのなかったものにまで対象を広げていきます。

この領域においては、自分の身近なものやことから始まり、今まで自分事として考えることの少なかった地球や宇宙などにも目を向けアプローチしていきます。これら私たちを取り巻くものやことを総じて環境とするならば、そこにアプローチしていく際には、自分1人もさることながら、他者と取り組むことに大きな意味が出てくると考えます。



1年生



2年生



3年生

また、C領域では、多角的・多面的に物事を捉えることを通して、A領域・B領域で培った力を最大限に発揮しながら、未来そうぞう科の集大成となる活動をすることができます。6年間の系統性を考えつつ3つの実践力が発揮されるようなカリキュラムを組むことで、よりよい未来をそうぞうする子どもの育成を目指します。



4年生



5年生



6年生